



“モノ”語り

—民具・物質文化からみる人類文化—

Things Talk: Human Culture from the Perspective of *Mingu* and Material Culture

日時：2010.12/11(土)–12/12(日) 10:00–18:00

会場：神奈川県横浜キャンパス 16号館 セレストホール

公開研究会 12月11日(土) 10:00–18:00

「民具の文化資源化 —“モノ”研究の新たな挑戦—

Session I. 「民具名称の諸問題」

「検索タグとしての標準名—農具の歴史を踏まえて—」 河野 通明
 「民具名称のなりたち—奥会津只見の事例から—」 佐々木 長生
 「比較文化研究のための民具名称—ラオス北部と南九州の現場から—」 川野 和昭

参加自由
申込不要

Session II. 「民具からみる東アジアの比較文化史」

「中国文化形成の基層性と多様性」 榎林 啓介
 「沖縄と福建における亀甲墓の比較研究」 小熊 誠
 「現代民具に『消費者の生産』を読む」 朽木 量

Session III. 「フネとカラダ—フネの構造と漕法—」

「身体活動の延長上にある北方船の技術—アムール川のムウとオモロチカー—」 赤羽 正春
 「手漕(パドル)と民俗—トカラから八重山まで—」 板井 英伸
 「船・漕の操作と絵画表現」 昆 政明

国際シンポジウム 12月12日(日) 10:00–18:00

「“モノ”と“ヒト”の人類文化史」

Session I. 人と道具

「道具と身体技法」 フランソワ・シゴ
 「道具の人間化・脱人間化、人体の道具化」 川田 順造

参加自由
申込不要

Session II. 人と“モノ”

「中国歴史文化の中の伝統手工芸」 徐 芸乙
 「『モノ』と人間：黄河流域における花饅頭の民俗文化」 周星

Session III. 人と生活

「モノから日本の近代生活を探る—階層・ライフスタイル—」 櫻井 準也
 「イヌイトとアリュートの『近代化』—皮舟と犬ぞりを事例にして—」

スチュアート ヘンリ

お問合せ/国際常民文化研究機構・神奈川県立常民文化研究所

TEL: 045-481-5661(代) FAX: 045-413-4151 <http://icfcs.kanagawa-u.ac.jp/>

主催：国際常民文化研究機構・神奈川県立常民文化研究所 協力：南山大学人類学研究所・武蔵野美術大学造形研究センター・福島県只見町教育委員会
 後援：日本学術会議/日本文化人類学会 日本民俗学会 日本民具学会 地方史研究協議会 日本考古学協会 道具学会 日本人類学会 日本生活学会



“モノ”語り—民具・物質文化からみる人類文化—

「モノ」は物理的だけではなく、霊的存在も日本語では示します。今回のシンポジウムでは、「民具マンスリー」をはじめとする日本常民文化研究所の長年の実績、文部科学省 21 世紀 COE プログラムのプロジェクト、更に非文字資料研究センターで取り組んできたマルチ言語版生活絵引の翻訳の作業を踏まえ、「モノ」と人間のかかわりから、新たな人類文化研究の可能性を探ります。中心的課題として、いずれの社会でも大多数を占める庶民が日常的に用いる「民具」名称の国際標準化を検討し、学術資料化を志向します。次に、「モノ」に託され、表された人々の意識、技術について論じ、国際常民文化研究における民具、物質文化研究の意義と方向性を考える場とします。

12月11日(土)

趣旨説明 佐野 賢治 神奈川大学日本常民文化研究所

公開研究会 10:00—18:00

「民具の文化資源化—“モノ”研究の新たな挑戦—」

Session I. 「民具名称の諸問題」 10:30—12:30

「検索タグとしての標準名—農具の歴史を踏まえて—」

河野 通明 神奈川大学日本常民文化研究所

「民具名称のなりたち—奥会津只見の事例から—」 佐々木 長生 福島県立博物館

「比較文化研究のための民具名称—オーストラリアと南九州の現場から—」

川野 和昭 鹿児島県歴史資料センター黎明館

司会・進行 神野 善治 武蔵野美術大学・機構グループリーダー

コメンテーター 八重樫 純樹 静岡大学

Session II. 「民具からみる東アジアの比較文化史」 13:30—15:30

「中国文化形成の基層性と多様性」 横林 啓介 総合地球環境学研究所

「沖縄と福建における亀甲墓の比較研究」 小熊 誠 神奈川大学日本常民文化研究所

「現代民具に『消費者の生産』を読む」 朽木 量 千葉商科大学

司会・進行 志賀 市子 茨城キリスト教大学

芹沢 知広 奈良大学

コメンテーター 太田 心平 国立民族学博物館

何 彬 首都大学東京

角南 聡一郎 元興寺文化財研究所・機構グループリーダー

Session III. 「フネとカラダ—フネの構造と漕法—」 15:45—17:45

「身体活動の延長上にある北方船の技術—アムール川のムウとオモロチカー—」

赤羽 正春 民俗学者

「手櫂(バドル)と民俗—トカラから八重山まで—」 板井 英伸 沖縄大学

「櫂・櫂の操作と絵画表現」 昆 政明 青森県立郷土館

司会・進行 後藤 明 南山大学・機構グループリーダー

コメンテーター 門田 修 (有)海工房

洲澤 育範 伝統シーカヤック造船所 イサナ・カヤック

総括 小川 直之 國學院大学・折口博士記念古代研究所

12月12日(日)

趣旨説明 佐野 賢治 神奈川大学日本常民文化研究所

国際シンポジウム 10:00—18:00

「“モノ”と“ヒト”の人類文化史」

Session I. 人と道具 10:30—12:00

「道具と身体技法」 フランソワ・シゴ 人類学者

「道具の人間化・脱人間化、人体の道具化」 川田 順造 神奈川大学

進行 神野 善治 武蔵野美術大学・機構グループリーダー

佐野 賢治 神奈川大学日本常民文化研究所

Session II. 人と“モノ” 13:00—14:30

「中国歴史文化の中の伝統手工芸」 徐 芸乙 中国・南京大学

「『モノ』と人間：黄河流域における花饅頭の民俗文化」 周星 愛知大学

進行 角南 聡一郎 元興寺文化財研究所・機構グループリーダー

小熊 誠 神奈川大学日本常民文化研究所

Session III. 人と生活 14:45—16:15

「モノから日本の近代生活を探る—階層・ライフスタイル—」

櫻井 準也 尚美学園大学

「イヌイトとアリュートの『近代化』—皮舟と犬ぞりを事例にして—」

スチュアート ヘンリ 放送大学

進行 後藤 明 南山大学・機構グループリーダー

平井 誠 神奈川大学日本常民文化研究所

全体討論 16:30—17:50

進行 朝岡 康二 日本民具学会

近藤 雅樹 国立民族学博物館

参加自由
申込不要

《問い合わせ先》

〒221-8686 横浜市神奈川区六角橋3-27-1

国際常民文化研究機構・神奈川大学日本常民文化研究所

Tel: 045-481-5661 (代) Fax: 045-413-4151

<http://icfcs.kanagawa-u.ac.jp/>

交通のご案内

- 東急東横線白楽駅下車徒歩13分
 - 横浜駅西口バスターミナルから横浜市営バスを利用(東神奈川駅西口経由 約15分)
 - ①番乗り場36系統「菅田町」行または「緑車庫」行「神奈川大学入口」下車
 - ①番乗り場82系統「八反橋」行または「神大寺入口」行「神奈川大学入口」下車
 - 横浜市営地下鉄片倉町駅から横浜市営バスを利用(約6分)
 - ②番乗り場36・82系統「東神奈川駅」または「横浜駅西口」行「神奈川大学入口」下車
- ※駐車場がありませんので、自家車の利用はご遠慮ください。

